

第2章 計画の目指すところ

1 基本理念

本計画では、本市の現状や市民の環境に対する意識、南丹市総合振興計画などを踏まえ、基本理念を明確にし、それに基づいて本市が目指す将来の環境像を示します。

意欲のある人

私たちは、環境をよくするために自ら考え、行動する、意欲のある人を目指します

環境保全のためには、一人ひとりの日常生活やあらゆる事業活動が、地域の環境にさまざまな影響を及ぼすことを認識し、行動することが重要です。環境を慈しむ心を育み、環境をよくするにはどうすべきか自ら考え、行動する、意欲のある人を目指します。

きずなを結ぶ

私たちは、環境を慈しむ心をとおして「人と人」を結び、きずなの強いまちを目指します

一人ひとりの取組が一体となった時、大きな力が生まれ、まち全体の活気にもつながります。環境を慈しむ心をとおして、人と人がきずなで結ばれたまちを目指すとともに、市外への結びつきも広げ、人が行き交うまちを目指します。

資源を活かす

私たちは、限りある資源を活かし、持続的に発展するまちを目指します

私たちは、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型のライフスタイルを見直す必要があります。環境への負荷の低減に努め、限りある資源を大切にし、活かすことで、将来にわたり良好な暮らしを保つとともに、まちの持続的な発展を目指します。

自然と共生

私たちは、豊かな自然を守り、将来に残すため、人と自然が共に生きるまちを目指します

豊かな自然環境は、私たちにさまざまな恩恵を与えてくれます。このかけがえのない財産を将来に残すため、自然を愛し、自然環境と調和したまちづくりに努め、人と自然の共生を目指します。

2 目指す環境像

前述した基本理念に基づくとともに、意識調査による市民が望む本市の将来の姿を踏まえ、目指す環境像を以下のように定めます。

--- 目指す環境像 ---

豊かな自然と人を守り育むまち 南丹

～住み続けたい・住みたいまちづくりを目指して～

本市は、個性あふれる4つの地域が合併したまちです。

るり溪、芦生原生林をはじめとする山林、そこから流れる由良川、桂川などの河川、その間に形成された盆地に広がる農地といった、多様な自然環境が身近に存在しています。

この自然環境を背景に、自然の恵みを活かした特産品の開発や観光への活用、バイオマスを活かした環境にやさしく災害に強いまちづくりを率先して行っています。

さらに、本市には、それぞれの地域に、人、環境活動団体、事業者、高等教育機関などが存在し、環境を守るための様々な活動を進めています。

こうして育んできた環境や人のつながりを市内外にも結びつきを広げることで、環境を軸としたまちの発展を目指すとともに、国が掲げる地域循環共生圏や南丹市総合振興計画で掲げる重点テーマ「住み続けたいまち・住んでみたいまち」の実現に貢献します。

--- 環境像のキーワード ---

『豊かな自然』 るり溪や芦生原生林、由良川など本市を特徴づける豊かな自然、また、意識調査で上位を占めていた将来の環境イメージ「豊かな自然を大切にする」を示す

『人』 環境保全活動や地域を支える南丹市全ての「人」を示す

『守り育むまち』 本計画で対象とする環境は、ただ「守る」だけでなく、「育み」、次世代に引き継ぐことが大切であり、本市ではこうした人と自然が共生した「まち」づくりを目指す

『住み続けたい・住みたいまちづくり』

総合振興計画では重点テーマ「住み続けたいまち・住んでみたいまち」が掲げられており、本計画においても活動を担う人材の確保や育成のために住み続けたい・住みたいと思えるまちづくりを進めることが重要であることから、環境像のサブテーマとして設定

3 施策体系

本計画では、市民・事業者・市の各主体の方針を示した「主体別の取組」と各地域の方針を示した「地域別の取組」の2つの視点から、本市の目指す環境像の実現を目指します。

基本理念

意欲のある人

きずなを結ぶ

資源を活かす

自然と共生

目指す環境像

豊かな自然と人を守り育むまち 南丹

～住み続けたい・住みたいまちづくりを目指して～

基本目標など

一人ひとりの取組成果

地域の取組成果

主体別の取組

人づくり

生活環境

地域環境資源

資源循環

地球環境※

重点プロジェクト

地域別の取組

園部地域

八木地域

日吉地域

美山地域

※地球環境は、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を包括